伊那市新しいまちづくり推進事業（イメージ）
伊那市
INA-CITY
イノベーティブシティの推進
地域ブランディングの推進
県南信工科
短期大学校
信州大学
SHINSHU UNIVERSITY
INADANI
SEES
リニア関連施策との連携
小黒川ISIC
上伊那医師会附属
准看護学院
（R8開校）
新たな公共交通の構築
伊那IC
富士塚スポーツ公園運動場
上伊那農業高校
上伊那総合技術新校(R14以降)
陸上競技場
市民体育館
県伊那文化会館
春日公園
伊那中学校
伊那中央病院
学びの横軸連携
伊那弥生ヶ丘高校
将来活用
伊那北高校
伊那新校(R10)
伊那小学校
創造館
いなっせ
JR飯田線
伊那図書館
伊那市駅
駅前広場の整備
まちなかウォーカブル
伊那北駅
駅舎・駅前広場、若者交流拠点整備
まちなかインフラの整備

伊那市新しいまちづくり推進事業 スキーム※スタート時のイメージ

伊那市 INA-CITY

官

伊那市

目指す姿

もり
森林の恵みを生かした持続可能なまち
（森林をこの地域の成長の礎とし「水・食料・エネルギー」を自活できる循環型未来都市）

快適で豊かな暮らしを創造するまち
（先端技術と人が寄り添うWarm Smart City）

若者の未来を育み、多様な人々が行き交うまち
（人とのつながりの中で誰もが自己実現できる社会）

事業検討

制度 予算化 事業実施

目的・課題の共有

政策提案

官民共創

官民共創の新しいまちづくり協議会

伊那新校・技術新校の開校をひとつの契機として、暮らしの中で生涯にわたり学び続けられる地域づくり「暮らしと学び」を進めていく。

運営委員会

まちづくり　商工　議会　教育　市　●●●

≪役　割≫
・プロセスマネジメント
・WG進捗管理

≪構成員≫
・7人程度（設立準備会メンバーを中心に構成）
・WGメンバーとの重複あり

ワーキンググループ(WG)全体会

共通の視点
ブランディング　イノベーション　コミュニティ・インフラ

全体会によるWG間の調整・連携

伊那北駅周辺再生WG
伊那北駅周辺の再生・活性化に関わるまちづくり

伊那弥生ヶ丘高校将来活用WG
伊那弥生ヶ丘高校の将来活用の検討とその活用によるまちづくり

まちなかエリア高度化WG
伊那市駅～伊那北駅エリア、竜東地域を含む市街地エリアのまちづくり（公共交通の再構築、ソフトとハード事業の連動、歩きたくなる街・若者が滞留する街など）

●●●●WG（必要に応じ追加）

≪役　割≫
それぞれのテーマにおいて、情報・課題の吸上げ、ニーズ把握、WG間での情報共有、事業化に向けた検討を行う。

≪WG構成員≫
・6人程度
（実践者・専門性のある者　5人程度
市職員　1人）

対話の場づくり（ファシリテーション）
主体をつなぐ（コーディネーション）
主体の発掘（サウンディング）

情報・課題の掘起し ニーズの把握

民

対話・つながり・実現の場

（まちづくりへ主体として参画）

新たなつながり・担い手の創出
より良い暮らしのイメージの共有
連携による事業実施

WGメンバー
実施主体

≪一例≫

「資源の共有」
「主体の発見」

≪伊那北駅周辺再生≫ 駅前広場の整備
≪伊那北駅周辺再生≫ 若者の居場所
≪伊那弥生ヶ丘高校将来活用≫ 福祉施設
≪伊那弥生ヶ丘高校将来活用≫ 大学等の誘致
≪まちなかエリア高度化≫ 空き店舗活用
新たなプロジェクト
≪まちなかエリア高度化≫ 公共交通の再整備

若者
大学生
高校生
中学生
地元
商店街
地元企業
教育関係
活動団体
市民
市職員
など

≪考え方≫
●まちづくりへ主体として参画ができる場として、若者や個人・団体などまちづくりに対し想いのある人が集い、それぞれのテーマで対話。
●そこから新たなつながりや連携が創出され、具体的な事業の実施につなげる。

出入り自由